

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームたみの里 一日乃出町 1階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町 81		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&jiyosvoCd=2272300969-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の季節行事を行ったり、外出を通して季節感を持っていただき、楽しんで1年を生活していただけるよう努めています。また、入居者の健康管理にも力を入れており、カロリー計算され、栄養バランスのとれた食事を提供させて頂き、体重の増減から栄養状態を見たり、体調の変化に留意しております。日常生活では、生きる励みになるようにと、ご本人の興味のあるアクティビティーの提供を個別に取り組んでいます。さらに、職員研修にも力を入れており、毎月行われている社内研修の充実を図り、職員の資質向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清掃業者が定期的に入り、常には見落としがちな面に手が入っています。そのためか、アプローチから玄関に入り居間へと進む空間には清浄な空気が流れ、清潔度の高さからくる居心地の良さは抜群です。こちらの居間で開催された10周年を迎えての家族会は、長い月日を振り返り、またさらに心を通わせる機会となり、普段面会の少ないキーパーソンやひ孫を連れだつての家族と食卓を囲む充実した時間は、職員の日頃の苦労が報われるものとなりました。職員の定着率が高く、管理者を支える2名のユニットリーダーを核としたチームワークに優れ、温かみのなかにもケアマネジメントが粛々と執り行われていることがみてとれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同、その理念を共有し、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。	「生き生き 生きる」との言葉は誰もが覚えやすいものですが、新採時研修において「どういう意味なのか」「具体的には…」と、じっくり落とし込まれています。訪問者への挨拶や梅干し体操を職員と一緒にする利用者の様子からも実践が受けとめられました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	一月には地区の公園にてどんどん焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。	犬を通して愛犬家のご近所と親しくなった例もあり、一般家庭のような地域のつきあいがあります。どんどん焼きのつきたて餅は頭数にあらかじめ入れてもらえ、利用者も「おごちそう」として楽しみにしています。数多のつきあい事例からは10年との長い月日の積み重ねを感じます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共に、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、意見交換をするようにしており、その中で市町への質問などが出ると、次回には必ず回答があり、貴重な交流の場となっている。	平日開催のため働く家族の参加が叶わず、現状は市町担当者と地域包括支援センター職員、民生委員を主なメンバーとして隔月開催しています。少人数のため、専門的な、または具体的な話し合いの場であろうことが書面から視えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して意見交換をしている。	「認知症サポーター養成講座をおこなって欲しい」との運営推進会議を通じた要請に応え、事業所もキャラバンメイトを増やして開催準備を進めています。会議で質問や相談をすると、その後まもなく回答があり、事業所は常に助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上の施錠以外は一切の施錠はしていない。	防犯のための夜間以外施錠はなく、オープンな環境をつくっています。また、運営推進会議の議事録には詳細な事故報告があり、「開示してアドバイスをもらい是正したい」との姿勢が伝わります。家族の意向もあり、現在1名薬使用の利用者がいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待に対して、あってはならない行為を理解してケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。	意見がもたらえたほうが実践しやすいため、職員は面会やプラン更新時に「何かありませんか」との問いかけを繰り返しています。「便りに行事計画を掲載し教えて欲しい」との要望は、来年度早々には応えるよう書式改定を進めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、各ユニット会議時等に提案できるよう努めている。	居室担当のほかに“係、があるためか、ユニット会議では責任をもった意見が挙がり、活発な意見交換があります。周年記念品の手作り作業では本部職員も加わり一丸となり、隙間の時間を工夫しての取組みは職員のチームワークが光りました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いをして頂いたり、洗濯物を干して頂いたり、日常出来る事を職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	趣味の俳句、編み物や縫物を続ける利用者もいます。句会に通い「次回までに10首つくらなくては」との目標を持ち、ドライブ外出でも「詠めた」と喜び、楽しみを倍増させています。カラオケ大会に参加したり、仲良しの医師の待つ医院へと、馴染みの例が豊富にみられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の食器拭きや、レクリエーションの時などにも、利用者同士が関わり合いのできるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思いや希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	職員は関わりの中で“その人らしさ”を発見し、小さな感動や妙味を共有することを一つの喜びとしています。会釈や「こんにちは」との挨拶、食事中も職員との会話に声を弾ませ笑顔がこぼれる情景から、毎日の生活にふれあいや会話が溢れていることが受けとめられました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況変化時、定時においては、カンファレンスをおこない記録に記している。問題となっている事を、御家族本人を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け本人の意向に沿えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、御家族の要望を取り入れながら介護計画書の作成をしている。	計画作成担当者が2ユニット兼務からユニット毎に配置され、また内・外部研修への参加も増えたことも下支えとなり、プランの実践に充実がみられます。職員がプランに目を通し、確認する場面が増えていることも確かな変化向上です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむことに協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	馴染みのかかりつけ医を継続している人は数名で、原則として家族に受診同行してもらっています。事業所のこともよく理解している協力医は必要とあれば往診もあり、訪問看護が週2回と、健康管理を含めた医療環境は安心の体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、又は看護日誌に記録して状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面話し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と入居者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	事業所の協力医は24時間オンコールでの支援があり、また定着率も高いことから職員もベテランが多くいるため、看取り希望を受けやすい状況にあります。ここ2年は看取りはありませんが、重度化により協力医との話し合いをもった例は2件あります。	書面整備をはじめ法人主導の組織体制は整えられていますが、例えば夜勤者の心的負担フォローといった、メンタル面へのバックアップ準備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の安全を第一に考慮し緊急時の対応訓練を行っています。色々工夫し、いかに安全かを考え、避難誘導を全職員で行っています。	事務所には緊急時の仕様書が掲示され、職員にも内容が周知されています。避難経路を設定した訓練をおこなっていますが、夜間など人員が足りない場合の対応が今後の課題です。備蓄は法人管理の下、期限切れ前に交換されています。	一昨年はあったものの昨年はなかったとのことですので、消防署職員の直接の指導を受け、改善ポイントを具体的に得ることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、言葉遣いに気を配っている。その時々にあった言葉遣いを行っている。	ルールは特に設けていませんが、入居時に「今までどんな風に呼んでましたか」と家族に確認し、「～さん」と呼称することが習慣となっており、同性介助の希望は現在はありませんが、あれば応じています。申し送りは利用者の耳に届かないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の利用者との会話や行動の中で、一人一人の思いや希望を表現出来るようにし、その希望を読み取り、出来る限り叶えられるように手伝いをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のその日の過ごしやすー一日作りを目指して、やりたい事やしたい事を自由に出来るように可能な限りは希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、気候に合った服装や、個々の好みを取り入れた服装選びを行っている。訪問美容の利用や、希望があれば、外出し、散髪する事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみメニューを取り入れ、好みの物、季節の物を作り、喜ばれるよう努めている。職員と一緒に、楽しみながら、食事をするよう努めている。準備や、片付け等、出来る事は、手伝って頂くようにしている。	本部からカロリー計算されたメニューに切り替えたところ、医師から「数値が改善されている」との報告もあります。“お楽しみメニューの日”は職員の得意料理が披露され、誕生日には赤飯や刺身とリクエストが並びます。月1回のうなぎ食や寿司外食は気分もかわるため好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部により、栄養バランスのとれたメニューを作成している。食事委員が点検し、報告をしている。職員は常に、食事、水分摂取量の確認と把握をし、報告を行っている。個人の状態により、刻み、お粥の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、出来る方には行って頂き、介助が必要な方には、職員が口腔ケアを行っている。希望により、一週間に一度、訪問歯科を受診される利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握する事ができており、その方に合わせた時間誘導の実施に努めている。失敗を減らす為に、早めのトイレ誘導を行っている。オムツやパットの使用量を減らす為、トイレでの排泄を実施している。	トイレは各ユニットに3つあり、内2つは車椅子が入れます。100歳を迎えようとする利用者が歩行器を使ってもトイレ向かう姿に、意志を尊重しようとの総意をもった職員の見守り支援がありません。夜間ケアにおいて安易に消耗品に頼らず、家族の経済的負担への気遣いもみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動不足からくる便秘予防の為に水分摂取の機会を充分にとり、体操や歩行訓練をしている。排泄チェック表で排便量を把握し、薬を調整している。毎朝、牛乳やヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者、一人一人の状態に合わせて、入浴順序を変えたり、介助の方法は、その人のペースに合わせた支援をしている。入浴剤を使用したり、湯の温度を一人一人の好みに合わせ、入浴を楽しめる環境を整えている。	2日おきをめやすに希望があれば都度応じていますが、時間帯は午後と限られます。増し湯のため好みで選ぶことはありませんが、毎日職員が「この香りは」と思案し、日替わりで変わり湯を提供しています。1対1の会話のもてる空間として、好みの職員が介助できるよう調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣によって、午後、臥床時間を作っている。天気の良い日に布団を干し、心地よく休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルの中に、薬事情報があり、職員がいつでも閲覧する事が出来る。変更があった場合、申し送りノートに、内容と注意事項を書き、全職員、把握出来るよう努めている。変化がなかった場合、医師に情報が伝わるようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の出来る事は、本人に行って頂き、時には職員と協力し、役割と達成感を持って頂く。レクリエーション、散歩等で気分転換できるよう支援している。ボランティアさんに来て頂き、楽しみごとの機会を作るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時には、日常的に近くの公園へ散歩に出掛けたり、希望によって、個々に、外へ出掛ける機会を作っている。遠足等の計画を立て、季節を味わうよう努めている。家族と相談し、一緒に出掛けられる機会を作っている。	歩き足りない人には次のポイントまで足を延ばすこともあり、散歩は個々に合わせています。いちご狩り、花見、遠足と、行事担当によって年間計画が生まれ、また外食は利用者に食べたいものをリサーチして出かけています。紅葉狩りは家族参加がありました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物を自由にする楽しみを持ってもらうように自己管理できる方には金銭を所持してもらい、職員と買い物に出た時に嗜好品を購入してもらったり、遠足などの外出時にお土産を購入してもらったりして、本人の希望でお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば電話や手紙のやり取りはいつでも自由に行う事ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、利用者様に不快感を与えない光度、温度、湿度の調整に細心の注意をしている。リビングからは、食事作りの様子やベランダの洗濯物が良く見え、生活感に溢れている。	壁には季節外れの掲示もありますが、これは福祉展に出品した力作とのことで、今後12ヶ月の時節もので壁面がいっぱいになるであろうことが期待されます。気づきにくい汚れを念入りに外部の清掃業者が定期的に取り除いていて、全体に清浄な空気が流れて清々しい共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間内で、個人で好きな事が出来たり、気の合う同士で気の向くまま過ごせる様に座席配置を工夫している。又、皆で集合してくつろげる様、テレビ前に、ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は、自宅で使用していた愛着のある物等をなるべく持参して頂くようにしている。又、居室のレイアウトは、利用者様の好みに合わせおこなっている。	一部日当たりのよくない部屋も、一方で富士山が見えるという利点があります。鏡台や筆筒が持ち込まれ、家族写真で和む暮らしぶりを視認しました。自分の世界を大切に趣味のもので寛ぐ利用者もいます。	共用空間の清掃は専門家が入っていますが、居室は職員のみですので、確実な取組みとなることを期待します。例. 職員間で相互チェックする
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所時は、自宅で使用していた愛着のある物等をなるべく持参して頂くようにしている。又、居室のレイアウトは、利用者様の好みに合わせおこなっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームたみの里一日乃出町 2階ユニット		
所在地	静岡県富士市日乃出町 81		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成26年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の季節行事を行ったり、外出を通して季節感を持っていただき、楽しんで1年を生活していただけるよう努めています。また、入居者の健康管理にも力を入れており、カロリー計算され、栄養バランスのとれた食事を提供させて頂き、体重の増減から栄養状態を見たり、体調の変化に留意しております。日常生活では、生きる励みになるようにと、ご本人の興味のあるアクティビティーの提供を個別に取り組んでいます。さらに、職員研修にも力を入れており、毎月行われている社内研修の充実を図り、職員の資質向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清掃業者が定期的に入り、常には見落としがちな面に手が入っています。そのためか、アプローチから玄関に入り居間へと進む空間には清浄な空気が流れ、清潔度の高さから居心地の良さは抜群です。こちらの居間で開催された10周年を迎えての家族会は、長い月日を振り返り、またさらに心を通わせる機会となり、普段面会の少ないキーパーソンやひ孫を連れだつての家族と食卓を囲む充実した時間は、職員の日頃の苦勞が報われるものとなりました。職員の定着率が高く、管理者を支える2名のユニットリーダーを核としたチームワークに優れ、温かみのなかにもケアマネジメントが粛々と執り行われていることがみてとれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生き生き生きるを運営理念とし、管理者、職員一同、その理念を共有し、利用者様の希望に沿ったケアを実践している。	「生き生き 生きる」との言葉は誰もが覚えやすいものですが、新採時研修において「どういう意味なのか」「具体的には…」と、じっくり落とし込まれています。訪問者への挨拶や梅干し体操を職員と一緒にする利用者の様子からも実践が受けとめられました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	一月には地区の公園にてどんどん焼きに参加し、地域の方々との交流を図っている。	犬を通して愛犬家のご近所と親しくなった例もあり、一般家庭のような地域のつきあいがあります。どんどん焼きのつきたて餅は頭数にあらかじめ入れてもらえ、利用者も「おごちそう」として楽しみにしています。数多のつきあい事例からは10年との長い月日の積み重ねを感じます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共に、時折、談話をして交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、意見交換をするようにしており、その中で市町への質問などが出ると、次回には必ず回答があり、貴重な交流の場となっている。	平日開催のため働く家族の参加が叶わず、現状は市町担当者と地域包括支援センター職員、民生委員を主なメンバーとして隔月開催しています。少人数のため、専門的な、または具体的な話し合いの場であろうことが書面から視えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して意見交換をしている。	「認知症サポーター養成講座をおこなって欲しい」との運営推進会議を通じた要請に応え、事業所もキャラバンメイトを増やして開催準備を進めています。会議で質問や相談をすると、その後まもなく回答があり、事業所は常に助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯上の施錠以外は一切の施錠はしていない。	防犯のための夜間以外施錠はなく、オープンな環境をつくっています。また、運営推進会議の議事録には詳細な事故報告があり、「開示してアドバイスをもらい是正したい」との姿勢が伝わります。家族の意向もあり、現在1名薬使用の利用者がいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待に対して、あってはならない行為を理解してケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、御家族からの相談があれば対応できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族から直接、意見、要望等を伺い、早急に対応できる事は、即実行に移し、話の内容によっては、全職員への通達を行い対応するよう努めている。	意見がもたらえたほうが実践しやすいため、職員は面会やプラン更新時に「何かありませんか」との問いかけを繰り返しています。「便りに行事計画を掲載し教えて欲しい」との要望は、来年度早々には応えるよう書式改定を進めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、常に聞き入れ、各ユニット会議時等に提案できるよう努めている。	居室担当のほかに“係、があるためか、ユニット会議では責任をもった意見が挙がり、活発な意見交換があります。周年記念品の手作り作業では本部職員も加わり一丸となり、隙間の時間を工夫しての取組みは職員のチームワークが光りました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数や職場での、置かれている状況等によって、研修に参加し、活かせる様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、要望や不安なことなど聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りの手伝いをして頂いたり、洗濯物を干して頂いたり、日常出来る事を職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上で、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	趣味の俳句、編み物や縫物を続ける利用者もいます。句会に通い「次回までに10首つくらなくては」との目標を持ち、ドライブ外出でも「詠めた」と喜び、楽しみを倍増させています。カラオケ大会に参加したり、仲良しの医師の待つ医院へと、馴染みの例が豊富にみられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の食器拭きや、レクレーションの時などにも、利用者同士が関わり合いのできるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思い希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	職員は関わりの中で“その人らしさ”を発見し、小さな感動や妙味を共有することを一つの喜びとしています。会釈や「こんにちは」との挨拶、食事中も職員との会話に声を弾ませ笑顔がこぼれる情景から、毎日の生活にふれあいや会話が溢れていることが受けとめられました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を把握するために、バイタル・食事量の定期的なチェックと観察を行っている。利用者のできる部分は利用者の力で出来るよう援助している。身体機能の維持のため、体操やレクリエーションの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況変化時、定時においては、カンファレンスをおこない記録に記している。問題となっている事を、御家族本人を含め、関連している各者と話し合い、必要なアドバイスを受け本人の意向に沿えるようにしている。	計画作成担当者が2ユニット兼務からユニット毎に配置され、また内・外部研修への参加も増えたことも下支えとなり、プランの実践に充実がみられます。職員がプランに目を通し、確認する場面が増えていることも確かな変化向上です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむことに協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	馴染みのかかりつけ医を継続している人は数名で、原則として家族に受診同行してもらっています。事業所のこともよく理解している協力医は必要とあれば往診もあり、訪問看護が週2回と、健康管理を含めた医療環境は安心の体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は、直接、又は看護日誌に記録して状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面会し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と入居者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	事業所の協力医は24時間オンコールでの支援があり、また定着率も高いことから職員もベテランが多くいるため、看取り希望を受けやすい状況にあります。ここ2年は看取りはありませんが、重度化により協力医との話し合いをもった例は2件あります。	書面整備をはじめ法人主導の組織体制は整えられていますが、例えば夜勤者の心的負担フォローといった、メンタル面へのバックアップ準備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時の対応にあたっている。応急手当、初期対応等の研修は受けていない職員が多い為、今後、段階的に行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の安全を第一に考慮し緊急時の対応訓練を行っています。色々工夫し、いかに安全かを考え、避難誘導を全職員で行っています。	事務所には緊急時の仕様書が掲示され、職員にも内容が周知されています。避難経路を設定した訓練をおこなっていますが、夜間など人員が足りない場合の対応が今後の課題です。備蓄は法人管理の下、期限切れ前に交換されています。	一昨年はあったものの昨年はなかったとのことですので、消防署職員の直接の指導を受け、改善ポイントを具体的に得ることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、言葉遣いや、その時に応じた言葉かけをするように心がけている。	ルールは特に設けていませんが、入居時に「今までどんな風に呼んでましたか」と家族に確認し、「～さん」と呼称することが習慣となっており、同性介助の希望は現在はありませんが、あれば応じています。申し送りは利用者の耳に届かないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、一人一人との会話や行動の中で、その方の希望や思いを感じ、読み取り、できる限り叶えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が、一日にやりたい事が、自由にできるように、声かけをしたり、やっている事を可能な限り自由にやらせてもらえるような環境作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の提供や職員により、髪のカットを行っている。。気候に合う服装、外出時の服装選びの手伝いをし、起床時や、入浴後等、髪の設定を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1,2回お楽しみ献立があり、利用者様の好みを考え喜んでもらえる献立になるように、作る人が、メニューを考える。食前、食後の準備、片付けは、出来る事を手伝って頂き、職員も一緒に食事をし、入居者との時間を共有する。	本部からカロリー計算されたメニューに切り替えたところ、医師から「数値が改善されている」との報告もあります。“お楽しみメニューの日”は職員の得意料理が披露され、誕生日には赤飯や刺身とリクエストが並びます。月1回のうなぎ食や寿司外食は気分もかわるため好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当が、献立表を確認し、栄養バランス、メニューの見直しを行っている。利用者様一人一人に合わせた食事形態(常食、刻み、ミキサー)で提供している。1日の食事量、水分摂取量は、日誌に記入し、利用者様の状態の判断の目安にする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は、声掛けにて行って頂き、介助が必要な方には、できる部分は行って頂き、出来ない部分は、職員が口腔ケアを行っている。希望により、週に一度、訪問歯科を受診する利用者様もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して、その人に合わせた時間誘導をし、声掛け等も工夫し、オムツやパットの使用もなるべく減らしていく自立支援を行っている。	トイレは各ユニットに3つあり、内2つは車椅子が入れます。100歳を迎えようとする利用者が歩行器を使ってもトイレ向かう姿に、意志を尊重しようとの総意をもった職員の見守り支援があります。夜間ケアにおいて安易に消耗品に頼らず、家族の経済的負担への気遣いもみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時と15時の水分摂取だけでなく、入浴後、便秘予防の為、なるべく水分が摂れるよう声掛けをする。運動不足からくる便秘予防の為には、毎日、体操をしたり、個別にもアドバイスする。又、栄養士によるアドバイスの元、献立に牛乳、ヨーグルト等を提供したり、毎日、排泄チェック表で、排便量を把握し、必要な場合は薬を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人、その日の体調や、状態に応じ、無理なく楽しく入浴出来るよう配慮している。湯温の好み等を考え、入浴順序を変えたり、介助の方法や、器具の置き方の工夫をし、安心して入浴できるようにしている。	2日おきをめやすに希望があれば都度応じていますが、時間帯は午後と限られます。増し湯のため好みで選ぶことはありませんが、毎日職員が「この香りは」と思案し、日替わりで変わり湯を提供しています。1対1の会話のもてる空間として、好みの職員が介助できるよう調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂けるよう、日中は、レクリエーションや家事等をして過ごして頂いている。又、体力、体調を考慮し、臥床時間を設けたり、休息の時間を取れるよう、各利用者様に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の処方箋ををファイルにまとめ、職員がいつでも確認できるようにしている。又、変更等あった場合、申し送りとして詳しく記入し、周知、徹底している。その後の様子観察もできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事(清掃、洗濯等)は、出来る方には行って頂き、編み物、縫い物、時々の外出等、楽しんで行って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や希望に合わせて日常的に近くの公園まで散歩に出ている。また、近所だけでなく、時には車で遠出したり、計画を立てて季節を楽しむような外出の機会を作ったりしている。また希望があれば可能な限り職員や家族が付き添って、買い物に出たり個人で戸外に出かける支援もしている。	歩き足りない人には次のポイントまで足を延ばすこともあり、散歩は個々に合わせています。いちご狩り、花見、遠足と、行事担当によって年間計画が生まれ、また外食は利用者に食べたいものをリサーチして出かけています。紅葉狩りは家族参加がありました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物を自由にする楽しみを持ってもらうように自己管理できる方には金銭を所持してもらい、職員と買い物に出た時に嗜好品を購入してもらったり、遠足などの外出時にお土産を購入してもらったりして、本人の希望でお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば電話や手紙のやり取りはいつでも自由に行う事ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、利用者様に不快感を与えない光度、温度の調整に細心の注意をしている。又、フローア-内に、職員と利用者様の共同作業で作った季節感の出る壁飾りを展示している。又、一日の多くを過ごすリビングからは、台所の様子や、ベランダ、外が見渡せるようになっている。	壁には季節外れの掲示もありますが、これは福祉展に出品した力作とのことで、今後12ヶ月の時節もので壁面がいっぱいになるであろうことが期待されます。気づきにくい汚れを念入りに外部の清掃業者が定期的に取り除いていて、全体に清浄な空気が流れて清々しい共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間内で、個人で好きな事が出来たり、気の合う同士で気の向くまま過ごせる様に座席配置を工夫している。又、皆で集合してくつろげる様、テレビ前に、ソファ-を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は、自宅で使用していた愛着のある物等をなるべく持参して頂くようにしている。又、居室のレイアウトは、利用者様の好みに合わせおこなっている。	一部日当たりのよくない部屋も、一方で富士山が見えるという利点があります。鏡台や筆筒が持ち込まれ、家族写真で和む暮らしぶりを視認しました。自分の世界を大切に趣味のもので寛ぐ利用者もいます。	共用空間の清掃は専門家が入っていますが、居室は職員のみですので、確実な取組みとなることを期待します。例. 職員間で相互チェックする
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所時は、自宅で使用していた愛着のある物等をなるべく持参して頂くようにしている。又、居室のレイアウトは、利用者様の好みに合わせおこなっている。		